



# あゆみ

〈教育目標〉  
やさしく  
かしく  
たくましく

朝夕と日中の寒暖の差が大きく、体調管理が難しい今日この頃ですが、子どもたちは元気よく友達と遊んだり、勉強したり、毎日の学校生活を楽しんでいます。とても嬉しいことです。校庭の木々や校舎の3階から見える日光などの山並みも色づき、日本の四季（春夏秋冬）の素晴らしさを改めて感じることでできる紅葉の季節になりました。校庭にあるイチヨウも黄色に色づいています。獨協医科大学病院のイチヨウ並木も素敵ですね。

ところで、読みかけの本のページに挿む葉（しおり）に落ち葉や押し花を使うことがあります。イチヨウの葉を挿むことが多いようです。有名な大学の図書館でも、大事な本が入ると、必ずイチヨウの葉を挿んで本棚に整理したそうです。イチヨウの葉を挿むと本に虫がつかないそうです。紙はもともと木からできているので、虫の好物です。とても小さな虫ですが、それがつくると大事な本が食べられてしまいます。しかし、イチヨウの葉を挿んでおくと虫がつかないそうです。ご存じのように、イチヨウの実は銀杏（ぎんなん）です。銀杏が落ちる頃になると、実の周りの柔らかい部分が腐ってきて、すごくくさい臭いがします。銀杏の腐った部分に直接触れると、手や肌がかぶれることがあります。そのかぶれのもとになるのが、すごい臭いを出している『イチヨウ酸』という名前の成分だそうです。その『イチヨウ酸』は、銀杏だけでなく葉にも含まれていて、その臭いを嫌って虫がつかないので、イチヨウの葉を1枚挿んでおくだけで、分厚い本でもその臭いが届くので大丈夫なのだそうです。古本の中にイチヨウが挟まっていたら、前の持ち主がその本を大切にしていた証ですね。



読書に適した秋の夜長です。せつかくの機会ですので、イチヨウの葉を葉に使いながら、『親子で読書』を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 道徳が変わります

11月7日（火）に下都賀地区の先生方、250人が参加して、本校で道徳の研究授業を実施しました。先月号でも話題にしたように来年度から道徳の授業は、**国が検定した教科書を使い、評価も行います。**今まで『あゆみ』に記載されなかった**道徳の評価が、文章表現という形で加わる**こととなります。教える内容には新たに『**いじめの防止**』も盛り込まれています。道徳の教科書を読むだけでなく、問題解決や体験的な学習なども取り入れ、**「考え、議論する」道徳教育**を目指すこととなります。この点を視野に入れ、今回3つの研究授業を行いました。これからも新しい道徳教育の実施に向け、全職員で研修をしていきたいと思えます。



この授業を実施した内山先生の感想です。

**（太文字が新しい道徳の指導です）**

道徳の研究授業を実施しました。これまでの**資料を読んで心情を考えていくような授業ではなく、その教材に出てくる登場人物の心の強さについて多面的・多角的に考えていく**という授業を行いました。どのように発問すれば子どもたちが**深く考えられる**のか、たくさんの先生方からアドバイスをいただきました。だからこそ、中心発問では**深く考えている**児童が多かったのではないかと感じます。また、授業をしてきて「問い返し」の大切さはとても感じました。5年生になると、経験も多いので授業の中で「**こう答えればいい**」と思っている児童は少なくありません。しかし、そこで「**本当にそうかい**」と問い返すことは、**本音を引き出したり深く考えたりすること**で欠かせないものだと思います。子どもたちが今日の授業を思い出して、自分の役割を果たしてくれるといいなと思います。この研究授業では、本当にたくさんの先生方に支えていただいて、子どもたちが**「自分のこととして」よく考えてくれて**成り立ったと思います。感謝の気持ちを忘れず、また授業を成し遂げたという自信を少し持って、これからも日々精進していきたいです。

## 授業参観・学級懇談 ご参観ありがとうございました

1月17日(金)に実施した持久走記録会・授業参観・思春期子育て・親育ち講座(6年生)、学級懇談会には、多くの皆様にご来校いただき、ありがとうございました。一生懸命に走る姿や真剣に取り組んでいる学習の様子などを保護者や地域の皆様に見ていただくことが子ども達の大きな励みになることを実感いたしました。

また、「地域ふれあい交流」として実施した餅つき(6年生)での『睦っ子ふれあい支援遊』の皆様にご心温まるご支援をいただき、深く感謝申し上げます。学校が家庭や地域の皆様によって支えられていることを改めて感じられた一日でした。



## 仕事とお金について考えよう

1月23日は勤労感謝の日です。人はどうして働くのでしょうか?それぞれの人に働くことの意味があると思いますが、『勤労感謝の日』を機会に、家族で働くことの意味、仕事とお金について話し合ってみてはいかがでしょうか。

第35回「おかねの作文」コンクール 秀作(毎日小学生新聞賞)

### 「ものやおかねのたいせつき」

太田市立立鳥之郷小学校 2年 高草木 麻佑

わたしは、2年生になってから、おかあさんに「まゆは、ものをたいせつにしないね。なにかほしいときは、すぐぐずってかっってもらおうとしているけど、ものをかうには、おとうさん、おかあさんがどんなおもいでまいにち、はたらいて、おかねをかせいでいるのかわかる。それを、あつというまにつかいあきたら、もうひつようないというのは、いけない。おかねのありがたさ、おかねをかせぐためのどりよくをしてみなさい。」とちゅういされました。

わたしは、いえのでつだいをしておかねを、ためてみようとおもいました。うわぐつあらい。げんかんそうじ。せんたくほし。へやのかたづけ。ちゃわんあらい。おふろそうじ。ねこのえさあげ。やすみのひにこんなにたくさんおてつだいをしました。おかあさんがひとつひとつかくにんして、「よくできたね。はい、おだちん」そういつてわたしの手にくれたのは10えんでした。

わたしは「うそでしょ」そういつてしまいました。おかあさんは「あたりまえでしょう。そんなかんたんにおかねがたくさんもらえとおもったの?だからおとなは大へんなんだよ。まいにちまいにち大へんなおもいをして、はたらいているの。ちょきんばこいっぱいになるまでがんばりなさい。いっぱいのちょきんばこになったらまゆのすきなものの自分のおかねでかいなさい。」そうつめたくいわれました。

こんなにがんばったのに。そうおもったけど、ほしいものがあるからちょきんばこいっぱいになるまで、がんばろうとおもった。でもいつもおなじ。いっぱいおてつだいするのにいつもおかあさんは、10えんしかくれません。ときどきかなしくなります。こんなにおてつだいたのに。おかねをかせぐのってほんとうにたいへんで、そのおかねで、ものやたべものをかうってほんとうにすごいことなんだと、いまになって思ってきました。

そう考えると、ティッシュのつかいすぎや、あきたからってえんぴつやけしゴムをとちゅうでかえてしまうのは、いけないことなんだとおもった。いっそくしかかってくれない、くつやうわぐつを、あらってつかうのもおかあさんがケチなんじゃなくものをたいせつにしているのかとおもった。わたしのちょきんばこの10えんだまは、まだまだいっぱいになりません。もうさんかげつもたったのに。